



巡礼その三十四 序章日本

インド、東南アジアの遺跡巡りをして、石に彫られた寺院彫刻をみているうちに日本の石の彫刻はどうなんだろうという疑問がわいてくる。日本は木の文化を持っており、素晴らしい木造の寺院建築ならびに木造彫刻を持っている。日本には本格的な石造寺院はないが石窟や磨崖仏、石仏を初めとする石塔や灯籠などの石造物の石の文化がある。また地方独得の石の文化があるのでそれらを見て回りたい。神社仏閣が好きで色々みてきたが今度の旅は石造物が主役である。温泉や各地のおいしい食べ物も予定に組み込み日本の巡礼の旅が始まる。日本の寺院の内部はほとんど写真撮影禁止である。当然仏像も写真撮影出来ない。私達はプロの写真家が撮った写真を見るだけである。まして写真の使い回しができない。ほとんどの場合石造物は野外にあり自由に撮影出来る。何十年、何百年と雨風にさらされ苔むした石造物は自然に良く似合う。町や村の道端や辻に置かれた石造物にはお花やお供え物が添えられ、清掃されて人々の厚い信仰心が伝わってくる。石造物に興味を持ったことによって、とてもディープな旅行をするようになった。それは磨崖仏などが容易にいける所にあまりないからである。また交通の便がきわめて悪い所にあるので自家用車かレンタカーで回ることになる。自家用車はなるべく小型で4WDであれば最高である。実際山の中や農道などを走る時は軽トラに勝るものはない。近くにとっても良い温泉（秘境の宿など）があることが往々にしてあり、そこでは山や海の珍味を味わうことが出来てとても楽しい。旅について山崎 脩先生の言葉を借りたい。「本来旅と称するものの原点は巡礼にあったと思う。信仰から、止むに止まれぬ神への思慕が日常から自信を脱却させ旅へと向かわせた。そしてそこに起こった自他の変化が、経済、文化にまで及んで旅を一層魅惑的のものにしたようだ。もはや、未知への探訪が生む感動に、黙って浸ればいい。理屈は帰ってから、思い出と共に反芻し、次への旅に広げればいい。狭くなった地球にはつきない人間の深奥があふれている。そして皆、生きているのだ。（旅 インド巡礼石の道よ

り)」

まずは磨崖仏の宝庫大分県の巡礼の旅から始まる。